



## 生きる喜びを味わってもらう数々の試み

東京都 藤倉学園 川田仁子

Daniel Chartrand氏は優しく、やや女性的な語り口で話を始められた（モントリオールではフランス語）。

高齢者が入居しておられるが鍵をかけないことを特徴としている。職員も制服を着ることはなく、ごく普通の格好をしている。125万人を対象として12の地区に分けてサービスセンターがある。そして7つの老人ホームがあり1,243人が入居している。平均79歳で、精神障害者は6%、知的障害者は3%であり、男性33%女性67%である。

働く人は1,650人で社会福祉の専門家100人、看護師は300人、衛生面の人材は725人、事務は100人、食事や清掃をする人は325人である。長期にわたる人を含め、自立機能を失った人たちに支援するものである。病院の雰囲気は無く、老齢は人生中の一段階と理解しており、生きる喜びを味わってもらうことが使命である。この哲学を理解してもらうため、ニーズを満たすための数々の試みをしている。高齢者の権利と自由についての印刷物は日本語で書かれたもので日本からの視察の方々が多いことが感じられた。建物はなるべく普通の建物で、食事は自室でなく食堂に行って摂る。自分の部屋には自宅から家具など持ち込み、自分で部屋に鍵をかける。郵便物は郵便局へ取りに行き、通りに面して、図書館、銀行、教会、理容院、美容院や酒場がある。

今までと同じように自由を持つことができるのである。保育園には近くの子どもたちが来て、この子どもたちと一緒に朝食や昼食をとり、Xmasや行事も一緒に楽しみ、子ども向けのTVを一緒に見たりしている。入所期間は4～5年である。

見解：なるほど廊下に・・・ストリート・・・アベニューとあって街のつもりらしい。郵便の出し入れをする郵便局、お金の出し入れをする銀行、礼拝堂と思える教会、理容室や美容室、酒場がちょっと裏通



施設内案内図（街の案内図になっている）

り（?）になっているのがほほえましかったし、小さい子がじじばばに甘え、友だちのように振る舞う両者がとてもほほえましかった。

Patrick Murphy氏は先の人よりやや経験不足の方のように見受けたが、多少おどおどした感じ以下のように話された。

この地区の自立できない人や自立できなくなりそうな人4,600人が対象である。3ヶ所の施設で350人をお世話している。どういう形の対策が良いのか判断して、それをここのデイケアの方針として、ホームへの入所をできるだけ遅れさせるためにチームを作り、運動や創作、時には看護師の助力も必要になる。

ここへ来るにはバスやタクシーに乗って、週に1～3回程度温かい食事を共に摂っている。

見解：宅老所を思い浮かべた。カナダの人口3,000万人、東京+京都位の人たちが日本の何十倍の土地に住み、老人問題も遠い。